

第63回 ミラノサローネ国際家具見本市

HOME STAGING JAPAN



Courtesy Salone del Mobile.Milano

THE ART OF SELLING YOUR HOME FAST

HOME STAGING
JAPAN

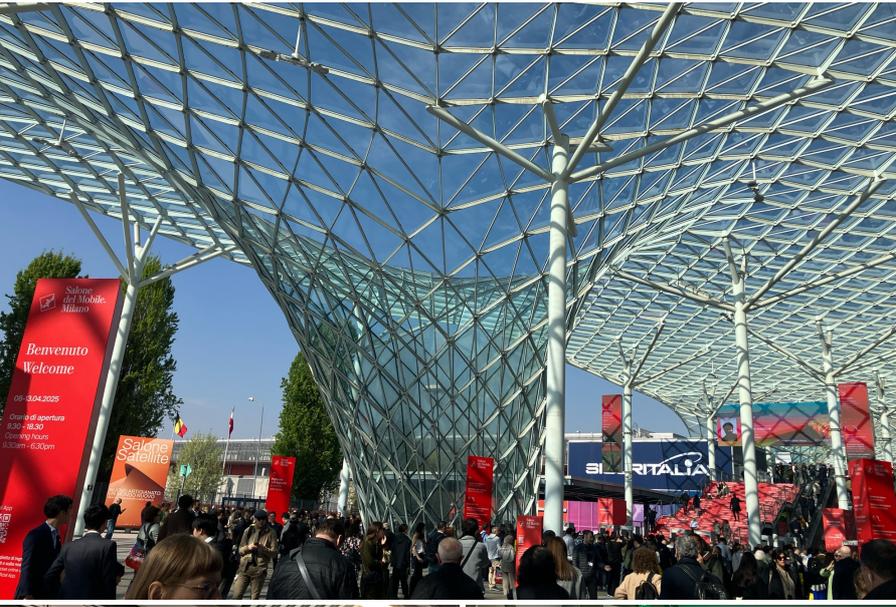
DESIGN WEEK REPORT 2025

新しいホームステージングは、 新しい価値観から生まれる

ミラノの街中がデザイン一色に染まる、ミラノ・デザイン・ウィーク。その中心的存在となるのが『ミラノサローネ国際家具見本市』。世界中が注目する63回目のデザインの祭典に、当社のクリエイティブチーム4名が今年も視察に訪れました。

世界37カ国、出展数2,103(サローネサテリテ参加デザイナー含む)のアウトプットから読み解くトレンド。また現地に足を運ばないと生まれない数々の新しい発見や出逢いを私たちは日本のホームステージングに反映し、新たな不動産流通の在り方をご提案して参ります。

DESIGN WEEK REPORT 2025では、独自の視点から読み解く今年の人気スタイルやマテリアル、カラーやフォルムの傾向等、コーディネーションの特徴を取り纏めています。タイトルに込めた想いの通り、皆様大切な物件に、付加価値となる新たなデザインのエッセンスをお届けします。



ミラノサローネとは

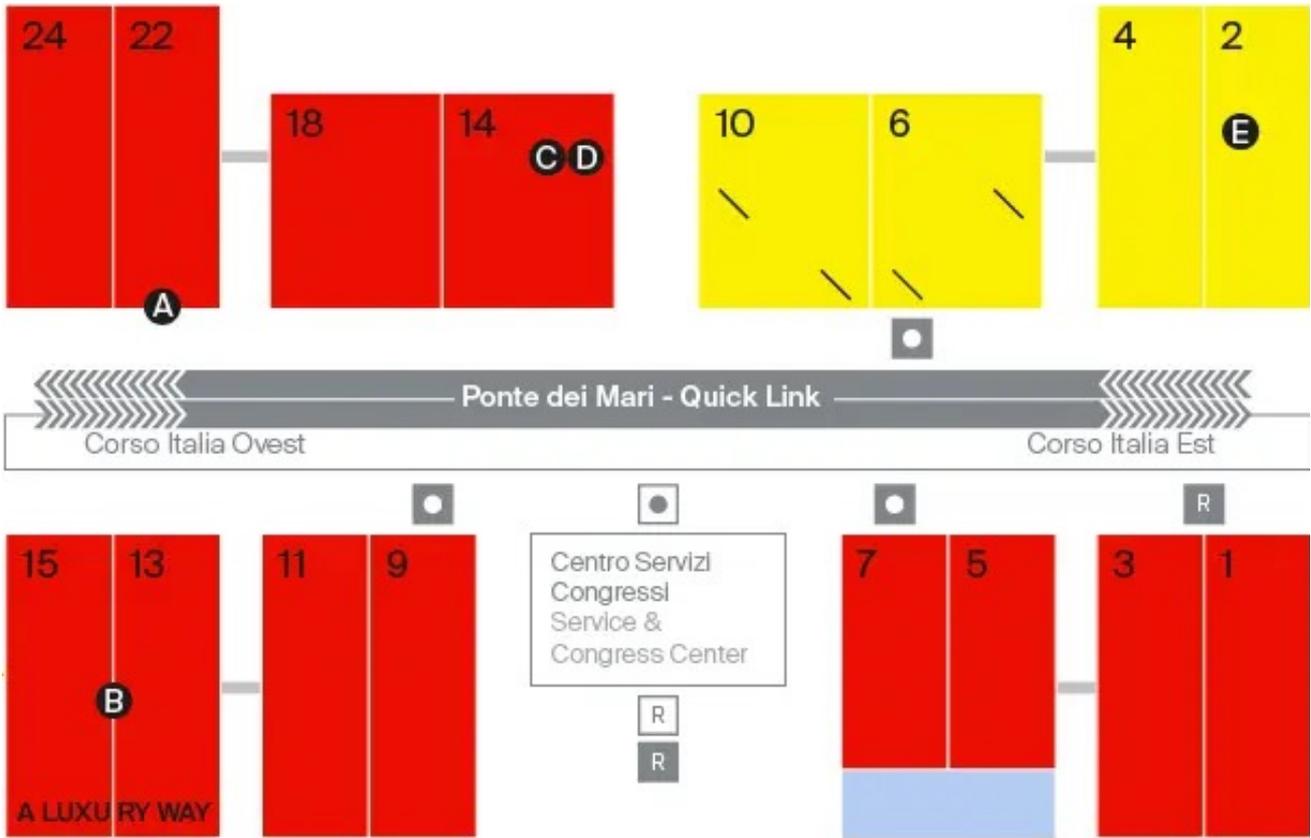
ファッションのパリコレ、インテリアのサローネ

イタリアの一流家具ブランドがボードメンバーに名を連ねる、イタリア家具工業連盟の子会社FLA Eventiが60年以上運営する、世界でも唯一無二の超巨大家具とインテリアの国際見本市。

主催者の厳しい審査を通過した企業のみが出展権を握り、出展製品の規制は非常に厳しい。出展ホールやブースの位置もすべて主催者が決定し、会期中万が一模倣品が発見された場合、即刻退去となる。

世界最高峰の製品を一堂に会すと同時に、来場者に最高品質と安心を保證する。平日は業界関係者のみが入場する純粋なビジネスの場となり、出展企業はイタリアをはじめ151カ国からの来場者対応のため、海外販路を構築し出展に挑む必要がある。週末は一般開放し、誰でも来場が可能である。

約 1.3 km



会場規模

東京ドーム 約 9 個分



■ サローネ国際家具見本市

■ サローネ国際照明見本市

■ サローネサテリテ
若手デザイナーや学生等、原則35歳未満が出演対象

開催地 ロー・フィエラミラノ

ミラノ市内中心部から、タクシー又は地下鉄で約30分。

会場 フィエラミラノ

2005年よりミラノ市内から、ミラノ近郊のロー市に建設された見本市会場。

会場面積 20万㎡以上・総敷地面積40万㎡超

設計 マッシミリアーノ・フクサス

邸宅やビル、国際空港等の建築をはじめ、世界中でインテリアデザイン、プロダクトデザイン商品を展開。

25年 出展数 2,103 (37カ国)

サローネサテリテ参加デザイナー 700人を含む

25年 総来場者数 302,548人 (海外からの来場者：68%)

世界的に大きな不確実性を抱え、市場の動揺を背景に開幕したが、海外からの業界関係者の割合は過去最高の68%。上位15カ国では、昨年と同様中国(6.5%)がトップ。次いでドイツ(3.5%)、スペイン(3.2%)、ポーランド(3.1%)、ブラジル/ロシア(3%)に続き、日本は昨年20位から13位となり1.6%。

過去3年の総来場者数平均 326,930人

2024年マンション総合EXPO(東京ビッグサイト)の約23倍。



2025 THEME | Thought for Humans

今年のミラノサローネは、『Thought for Humans(人間のための思考)』技術・素材・デザインの革新がテーマ。さらに持続可能な社会への貢献と言った未来の暮らしを提案する展示の数々を通し、デザインがどのように進化し、私たちの暮らしやものづくりに影響を与えるのかが問われました。



2025 TRENDS | CMS

その年のデザイントレンドがどこよりも早く発信されるインテリアデザイン界で最もエキサイティングな1週間。

まる3日間をかけ、東京ドーム約9個分の会場に集結した2,100社近いブランドの視察を行いました。

私たちHOME STAGING JAPANの目線で読み解いた2025年のインテリアトレンドを、CMS(カラー・マテリアル・スタイル)を中心に分類しお届けします。

リッチでムーディーな燻みカラー

明るめのニュートラルカラーやベージュやブラウンなど、引き続きアースカラーは人気傾向。そんな中25年は、より深く落ち着いた色味のプラムやフォレストグリーン、マスタードなどリッチでムードのある色がトレンド。特にプラムとフォレストグリーンが目を引いていました。

Plum 

Forest Green

Fabrics

陰影を生み出すファブリック

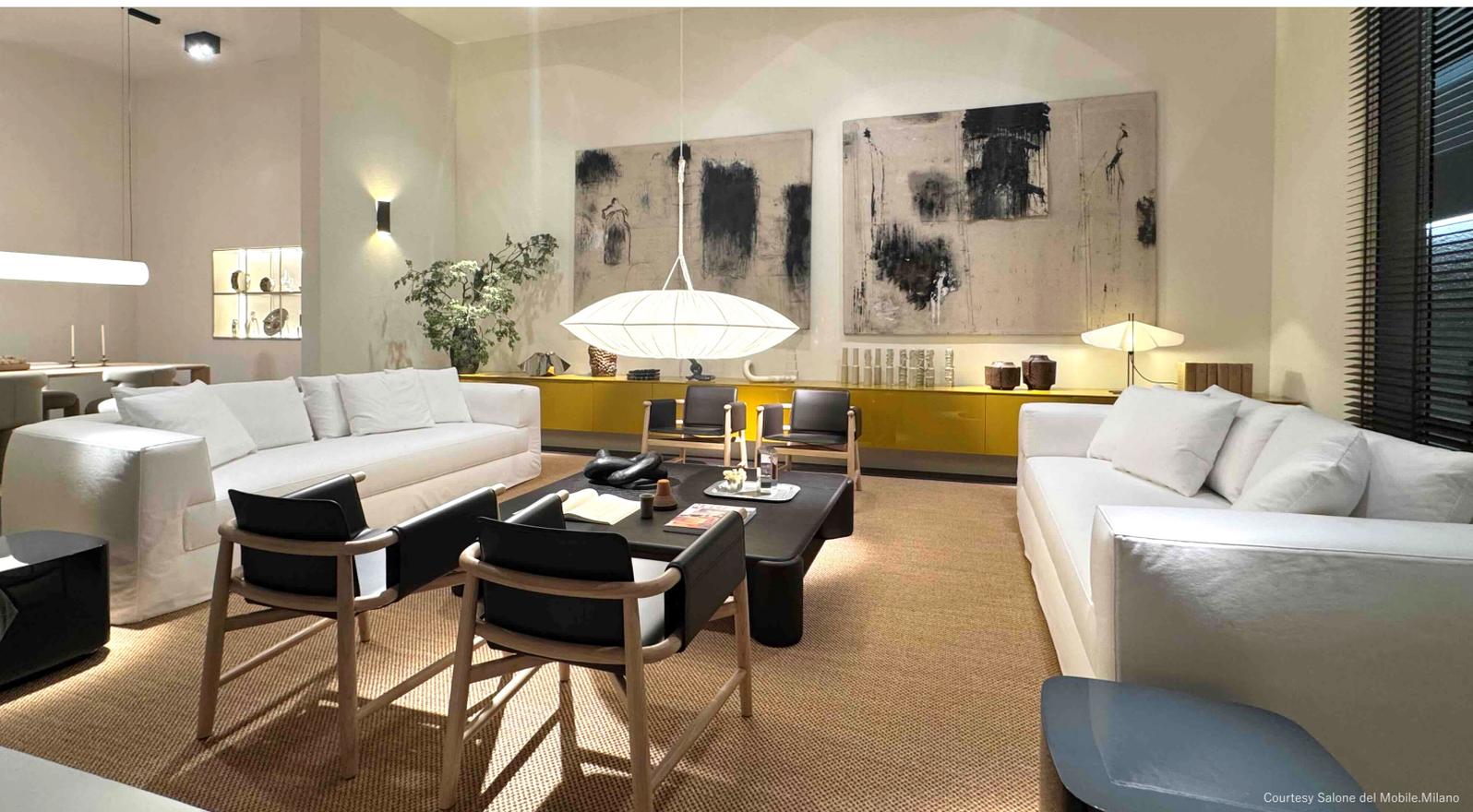
ブークレの張地が引き続き目立ちましたが、昨年と比較すると圧倒的に減少。代わりにジャガード織りや多色の糸を織り込んだ凹凸のあるファブリックが目立ちました。ジャガードはプリントに比べ色落ちしにくく耐久性も高いので、近年注目の高まるサステナビリティ思考が、ファブリック選定にも影響を与えていることが伺えました。



Mixing Materials

異素材のコンビネーション

大理石と鏡面塗装の面材、木材と石材、透明感のあるガラスと大理石等、異なる質感や色の組み合わせが目立ちました。アクセントを効かせたビジュアルで、デザインにより奥行きや緊張感を生み出している印象。



Courtesy Salone del Mobile.Milano



MERIDIANI | Store Milano

Layouts that create multiple Dialogue Hubs

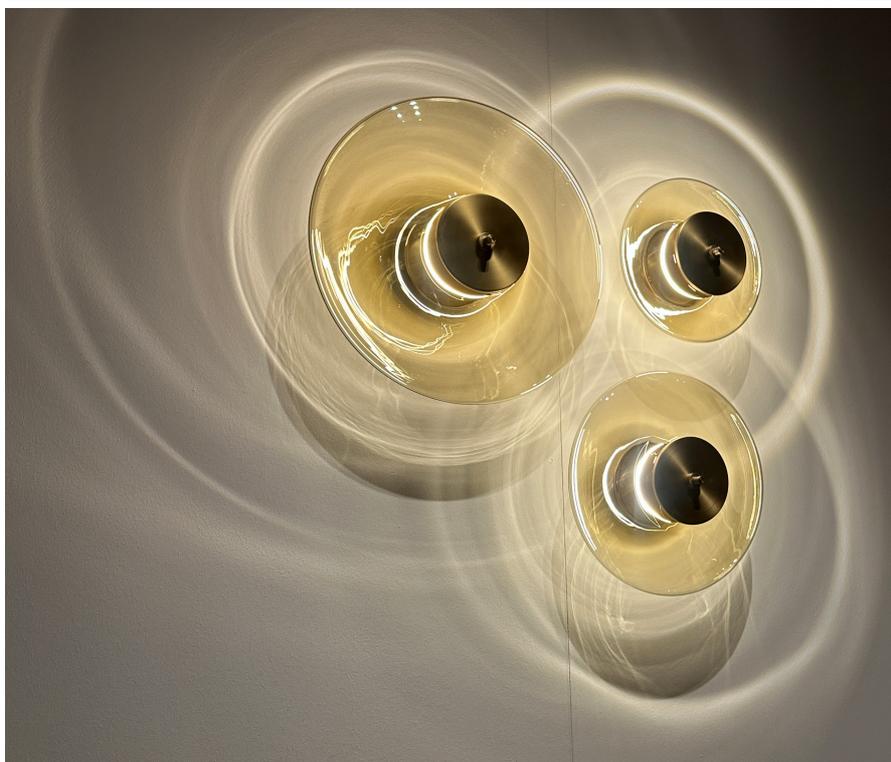
多機能なリビング、会話が生まれるレイアウト

近年のリビングルームは、様々な役割を担う多機能な空間へと変化しています。寛ぐだけの場ではなく、友人とのコミュニケーションや、家族全員が個々の目的に没頭できる場であるべき。そんなニーズの変化に伴い、巨大なソファをリビング中央に配置するのではなく、軽量で柔軟に移動できるスツールやアクセントチェア、サイドテーブル等をパズルのように組み合わせた『会話の生まれるレイアウト』が目立ちました。他にも背もたれのないソファを背中合わせに配置し、個々の時間を思い思いに過ごすためのアプローチも多く見受けられました。

Euroluce 2025 | ミラノを照らす

最新の照明デザイン・技術・そして未来へのトレンドが一堂に会した、国際的な照明見本市であるEuroluce。

ミラノサローネでは、見本市が隔年交互に開催され、奇数年は照明見本市、偶数年はキッチン・バスルームの見本市となる。



照明トレンドに見るコントラストの妙

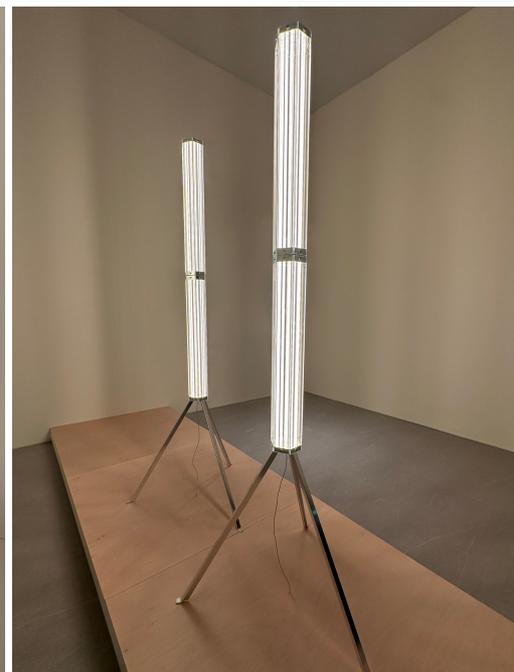
住空間に自然の温もりを取り入れるニーズの高まりが感じられ、天然素材やサステナブル素材を用いた拡散光の照明やガラスの球体をランダムに組合せたペンダントライトが目立った。また家具の展示ブースでのコンビネーションを見ても、サイズがより大きくなったのも今年らしい。他にも壁面照明やペンダントライトは、よりアートピースとした存在感を放ち、そのデザイン自体が空間のハイライトとなるような提案が印象的でした。

-FLOS- 光を操る革新的なアプローチ

独特のグラフィックパターンとマグネット式の連結システムにより、壁面を『光り輝くキャンバス』と捉え手作業で形作られている。その予測不能な動きと質感により、柔らかく、没入感のある輝きを放っていた。



Courtesy Salone del Mobile.Milano



円筒形やガラスの球体を組み合わせた幾何学的なフォルムの照明や、空間に合わせ連結したり先端に球体を吊り下げるなどモジュラー式照明も注目を集めていました。過度な装飾を削ぎ落としたシンプルな造形の中に、光のニュアンスへの細やかな拘りが感じられ、上質な空気感をもたらしていました。

五感を揺さぶるブランド戦略

各社が趣向を凝らしブランドの世界観をブース演出で表現。特に印象に残ったのは新作チェアの展示方法でした。約1万個もの透明な球体をミラー張りの天井から吊り下げ、空間全体を使い光によって立体的に表現。革新的な展示手法が来場者の目を引いていました。



Courtesy Salone del Mobile.Milano



新しいホームステージングは 新しい価値観から生まれる

2025年のHOME STAGING JAPANにも、どうぞご期待ください。

THE ART OF SELLING YOUR HOME FAST

HOME STAGING
JAPAN